

ニュージーランドの記録



コロナ中のロックダウンで閑散とする中、ラグビースタジアム前にて

中島 康博 (なかしま やすひろ)

前・在ニュージーランド日本国大使館経済班一等書記官
国土交通省水管理・国土保全局河川計画課国際室課長補佐

2007年国土交通省入省。2013年4月から2017年8月まで札幌開発建設部河川計画課、北海道開発局河川管理課、帯広開発建設部治水課での勤務を経て、2018年3月から2021年3月まで在ニュージーランド日本国大使館経済班に所属。インフラプロジェクト、日本企業支援など経済関係を担当。

はじめに

私は、2018年3月から在ニュージーランド日本国大使館経済班で3年間勤務し、2021年3月に帰国しました。在任期間中は、インフラプロジェクト専門官、日本企業支援担当官等といった、大使館書記官として担当するいくつかの役割に基づいて、ニュージーランドや日本との経済関係に係る様々な業務を行いました。

本誌では、在任期間中の生活や業務の中から、ニュージーランドの概観を紹介できればと思います。ニュージーランドは気候にも自然にも恵まれ、過ごしやすく、郊外に出るとたまに北海道を思い出すような風景（羊や延々と続く長い道や広大な大地など）も広がっているなど、一度は訪れてみてほしいと思える国ですので、機会があれば是非行ってみてください。

1 ニュージーランドの概要

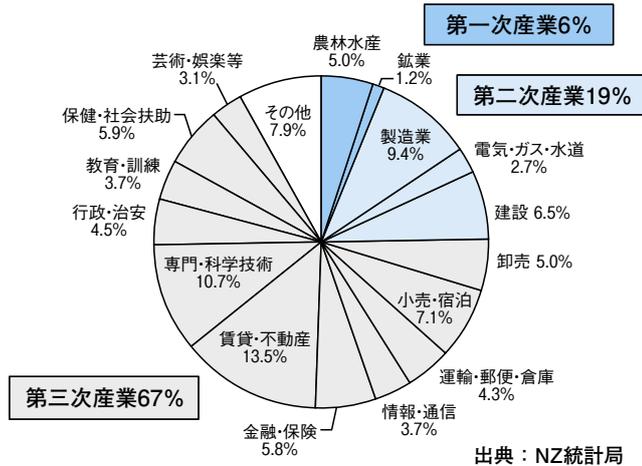
(1) 国土や気候など

ニュージーランドは日本の約4分の3にあたる約27万km²の国土面積、日本の約25分の1にあたる約509万人（2020年12月末時点）の人口を持つ小さな国で、大きく北島と南島に分かれています。英国などの欧州系が70.2%、先住民のマオリ系が16.5%、インドや中国などのアジア系が15.1%、太平洋島諸国系が8.1%の多種多様な民族から構成される多民族国家です。首都は北島の南端に位置するウェリントン市（首都とし



図は外務省HPより
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/nz/index.html>

【NZの産業別GDP比率】
(2020年1月～2020年12月末)



ては世界最南端) にあり、ニュージーランドの中央政府があるほか、日本国大使館もウェリントン市に存在します。一方で、首都であるウェリントン市の人口は20万人程度であるのに対して、ニュージーランドの最大都市は北島北部にあるオークランド市であり、全人口の約3分の1となる170万人程度の人々が過ごしています。

日本とは逆になりますがニュージーランドにも四季があります。日本と比較すると、年間を通して寒暖の差が小さく、海洋性の温暖な気候に恵まれています。私が住んでいたウェリントン市は「Windy Wellington」との俗称で呼ばれるように強風や降雨も少なくはありませんでしたが、平均気温は夏季16℃、冬季8℃で、降雨日数は年間平均123日、冬の降雪もなく過ごしやすかった印象です。特に夏は天候にも恵まれやすく、夜9時過ぎくらいまで明るいほど日が長かったりもしますし、ニュージーランド産のおいしいビールやワインを昼でも夜でも明るい陽射しの中で飲んで過ごすことができたのは、ニュージーランドで勤務する者の特権だったのかなと思います。

(2) ニュージーランドの首相

現在のニュージーランドの首相は、ニュージーランドで史上最年少となる37歳(当時)の若さで史上3人目の女性首相として就任したジャシンダ・アーダーン

首相(労働党党首)です。ニュージーランドの議会は一院制120議席、任期は3年ですので3年ごとに総選挙が行われます。アーダーン政権は私の赴任準備期間中、2017年10月に誕生しました。アーダーン首相は2018年6月に女の子を出産し、6週間の産休を取得し、世界で最初に在任中の産休を取得した女性首相としても、国内外で話題となったと認識しています。

2019年3月に発生したクライストチャーチモスク銃乱射事件後の銃規制法の強化等の対応や、2020年3月からニュージーランドでも本格的な流行が確認され始めた新型コロナウイルス感染症への対策として、迅速な外国人入国禁止措置やロックダウン(都市封鎖)を導入したり、フェイスブックを通じて国民に寄り添った毎日の情報発信を行ったりしたことなどが、ニュージーランド国民からの高い評価につながり、二期目となる2020年10月の総選挙でもアーダーン首相が党首を務める労働党が圧倒的な勝利を収め、アーダーン首相が再任しています。

2 ニュージーランドの経済

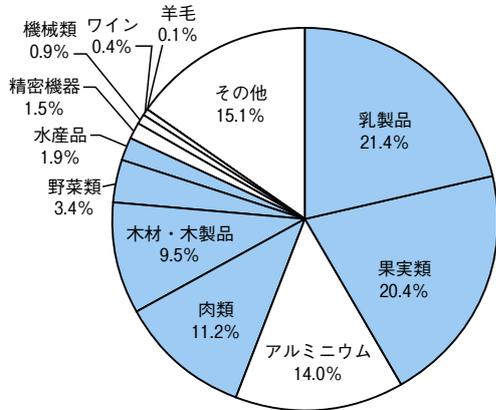
(1) 概要

ニュージーランド経済の特徴は、質の高い一次産品及びその関連製品の輸出、観光や教育といったサービス貿易にあるといえます。ニュージーランドの産業構造をGDPの部門別比率で見ますと、第一次産業が約6%、第二次産業が約19%、第三次産業が約67%となっています。2020年のニュージーランドの名目GDPは2,093億米ドルで、日本の約25分の1に相当します。また、2020年の1人あたり名目GDPは約41,127米ドルで、日本の約40,146米ドルよりやや高めです。

(2) 貿易

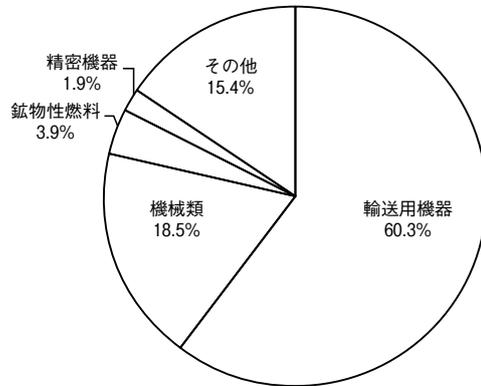
農林水産業分野は、GDPの約5%ですが、輸出総額約576億米ドルの約55%(乳製品29.9%、肉類15.0%、木材・木製品9.7%、果実類6.8%等)を占めます。輸出相手国は中国と豪州向けが総額の約40%を占め、

【対日輸出における主要品目の割合】
(2020年12月末までの12か月間：対日輸出額約35億NZドル)



※色がけは、農林水産品

【対日輸入における主要品目の割合】
(2020年12月末までの12か月間：対日輸入額約32億NZドル)



出典：NZ統計局

2013年以降は中国が豪州を抜き最大の貿易相手国となっています。対日輸出における主要品目の割合は、乳製品21.4%、果実類20.4%、アルミニウム14.0%、肉類11.2%、木材・木製品9.5%と続いています。

ニュージーランドと聞いて思い浮かべるのは羊ではないかと思えます。ニュージーランドには人口の約6倍に当たる約3,000万頭の羊がいます。羊以外に牛や豚も多く酪農国家ですので、肉類、乳製品が多く輸出されていることは理解しやすいのではないのでしょうか。また、日本に輸入されるキウイフルーツのほぼ100%がニュージーランド産だと知っている方は、日本への果実類の輸出が多いことも理解できるでしょう。しかし、アルミニウムが日本への輸出額上位にあることは意外な方が多いのではないのでしょうか。これは、南島の南端にあるアルミニウム精錬所で高い純度のアルミニウムが製造されており、この事業に日本の企業も約20%を出資しているためです。アルミ価格の低迷や電気料金・送電料金（アルミの精錬には電気が必要）の高騰等から、ニュージーランドでのアルミ製造がいつまで継続されるかについては動向が不明で、日本との貿易構造にも影響があることから引き続き注目したいと思っています。

また、輸入総額は約570億米ドルであり、そのうち

機械類が23.7%、輸送用機器が11.3%、鉱物性燃料が8.5%等となっています。対日輸入における主要品目の割合は、輸送用機器60.3%、機械類18.5%、鉱物性燃料3.9%、精密機器1.9%と続いています。輸送用機器は自動車に当たります。実はニュージーランドでは日本の自動車がたくさん走っています。ニュージーランド統計局の登録台数の統計によれば、1年間に登録される新車のうち、約50%が日本車で、中古車に至っては、1年間に登録される中古車のうち、約90%が日本車です。車道は日本と同じ左側通行ですし、歩いている現地の方々を見ずに道路だけ見ていれば、その走行車種等から日本の道路に見えてしまってもおかしくないでしょう。

ニュージーランドの輸出入額はともに、中国、豪州、米国という順位であり、日本は第4位に位置付けています。CPTPP（環太平洋パートナーシップ協定）を、米国離脱後に、ニュージーランドと日本が連携して2018年12月に発効したことは、日ニュージーランド間の貿易関係では大きなできごとでした。また、2020年11月には日本とニュージーランドが参加するRCEP（地域的な包括連携協定）も署名され、2022年1月に発効しました。今後の日ニュージーランド間の経済関係、貿易関係の強化にも期待しています。

(3) 日ニュージーランド経済関係

外務省が毎年実施している海外進出日系企業拠点数調査によれば、2019年10月1日時点のニュージーランドの進出日系企業数は約200社でした。そのうち約150社はオークランドに所在しています。先にも触れた貿易関係もそうですが、日本とニュージーランドの経済関係は良好な関係にあります。

なかでも1974年に設立された日本とニュージーランドの民間企業等で構成される日本ニュージーランド経済委員会は、両国の経済関係の緊密化や発展に継続的に取り組まれていて、1974年に第1回日本ニュージーランド経済人会議を開催して以降、毎年交互に双方の国で開催され、日本からは多くの企業が参加し、ニュージーランドからも閣僚、政府関係者、企業等が参加し、様々なテーマで日ニュージーランド経済関係の発展に資する発表や議論がなされています。

2019年9月は日本（於：千葉県柏市）で第46回会議が開催され、両国から計146名が出席し、「日・ニュージーランド経済情勢概観～CPTPP発効とRCEP展望」、「インフラストラクチャーと投資」、「持続可能な開発（含む再生エネルギー、林業）」、「農業（含む機能性食品）」、「イノベーションとスタートアップ」、「ツーリズムとマオリビジネスについて」等について議論されました。

ニュージーランドにはオールブラックスというラグビー界では有名なチームがあり、ニュージーランドのラグビー人気は熱狂的なものがあります。オールブラックスは、ハカと呼ばれる試合前に士気を高めるマ



ラグビースタジアム（ウェリントン）

オリの伝統的な踊りでご存じの方も多いのではないでしょうか。2019年9月は日本でラグビー・ワールドカップが開催された時期にあたり、第46回会議はこのようなニュージーランドのラグビー人気も考慮して日程が設定され、「ラグビーを通じた日・ニュージーランド関係の構築について」というテーマでの議論もされました。

余談ですが、この時期、日本では北海道出身の大泉洋が主演を務める「ノーサイド・ゲーム」という企業所属のラグビーチームの再建を題材としたドラマがラグビー・ワールドカップを前に放送されていて、ニュージーランドから帰国した選手がウェリントンのスタジアムでプレーしていた際のシーンもありました。

3 ニュージーランドの主なインフラ事情

ニュージーランドには毎年5～6万人の移民が流入する等、人口が増加しており、2038年には520～630万人に増加すると見られています（注：新型コロナウイルスが大流行する前の試算）。このため、インフラ整備が喫緊の課題となっていて、特に人口の約3分の1が集中するオークランドにおける住宅不足や交通渋滞等の問題の解消は社会問題化しています。

このようなインフラ上の課題解決や、日本企業のニュージーランドでの事業参入のきっかけとなることを目的として、2019年7月に、在ニュージーランド日本国大使館が主催する「日ニュージーランド・インフラ関連企業ネットワークワーキング会合」を初めて開催しました。

当日は、ニュージーランドの政府関係者、オークランド市関係者、インフラ関係団体、日ニュージーランド双方のインフラ関係企業等約110名（主催者側以外）の参加がありました。ニュージーランドの財務省、住宅・都市開発省、インフラ・ニュージーランド（インフラ関連企業の業界団体）から、ニュージーランドのインフラ市場の概要及び課題等について基調講演を行っていただき、住宅、ライトレール、スマートシティ

に関するニュージーランド側の担当機関からも説明を行っていただきました。また、これらの分野に関し他国での経験を有する日本企業からも海外での取組を紹介していただきました。具体的な案件形成に結びつけることにはなりませんでしたが、多くの日本企業がニュージーランドでのインフラ事業への関心と熱意を有していることは伝えることはできたのではないかと思います。



日ニュージーランド・インフラ関連企業ネットワーキング会合



夜の星空とコバルトブルーの湖面の色が印象的なテカポ湖



富士山に似ているとよく紹介されるタラナキ山

おわりに

ニュージーランドは、北海道と同じく自然が豊かで、国民性も温かく親しみが持てる方々が多いと感じられる国でした。「エアライン・オブ・ザ・イヤー」を何度も受賞しているニュージーランド航空が成田空港からオークランド空港まで直行便を飛ばしており、日本からの距離はありますが快適に寝ている間に行くことができます。私の一番のお勧めは夜の星空が世界で一番きれいに見えるで紹介されることもある南島のテカポ湖の湖面の色でしたが、北島のタラナキ山、南島のクイーンズタウンの自然やダニーデンの街の景色なども訪れてよかったと思えるものでした。他にもたくさん見どころや楽しみ方がある国ですので、コロナ禍が明けた際には、是非行ってみてください。



景観やアクティビティが人気のクイーンズタウン



装飾が美しいダニーデン駅